

保育職の離職率は高くはない

保育士正規職員離職率は、9.3%（2017年（平成28年及び平成29年）社会福祉施設等調査,厚生労働省）
日本女性一般労働者離職率は、11.4%（2019年（令和元年）雇用動向調査結果概要,厚生労働省）
保育士の離職率がとりわけ高いとは言えません。

保育者が大変だと思われる理由は？

「過去に保育士として就業した者が退職した理由」

1位「職場の人間関係(33.5%)」2位「給与が安い(29.2%)」3位「仕事が多い(27.7%)」
4位「労働時間が長い(24.9%)」5位「妊娠・出産(22.3%)」東京都保育士実態調査報告書（2019）

自分が不適切な保育をしないか心配・・・

現在問題となっている子どもへの不適切な関わりは、子どもの人権・人格の尊重の観点に照らし、改善を要する行為ですが、現在の保育所保育指針等で示されている内容を理解し、保育方法を園内で検討する体制や同僚性があれば、未然に防ぐことができる事案です。しかし、残念ながら必ずしも「すべての園が」とは言い難いのが現状です。

保育施設としても“大人（保育者）”も“子ども”も過ごしやすいワクワクする生活環境へ

今は保育の量ではなく質がキーワード

現在各自治体や法人において、人間関係の風通しを良くしたり、ノンコンタクトタイムと
いって子どもと関わらずに仕事をする時間を設けたり、外部の研修時間を増やしたりと、労働環境の改善や園を開いての研修を行うなどの保育の質向上の取り組みが進められています。

保育の質の向上のために園を開いて保護者とも地域の人々とも共に“一緒に子育て”を行って
いく保育文化も広がってきています。

保育を正しく理解して 子どもに寄り添い 信頼を得ること

良い就職は「自分を知り磨くこと」と「就職先を知ること」

あなたはどのような保育者になりたいですか？

保育者を目指すのであれば、ただ資格が取れば良いのではなく、
2年間（4年間）で何を学んでどのような価値観をもった保育者になる
のかが将来に渡り非常に大切です。



あなたに合った園との出会いが大切

保育施設は地域性、規模、理念、職員構成などによって多様に変化します。あなたの特性を活かせる、あなたに合った園と出会うことが大切です。そのためには、まず自分を知り、夢に向かって意欲的に学んでいく姿勢が大切です。

各園と綿密な連携による就職サポート体制

就職先選びでは、“保育の質の向上”と“保育者の処遇・労働環境改善”に取り組んでいる園を探ることが必要です。しかし、求人票やスマホのアプリでは、いわゆる“ブラック”なのかどうかは見えません。また、あなたの保育観や人柄に合った園文化なのかは分かりません。

和泉短期大学の67年の実績の中には“現場との連携”があります。実習や研修等で日々現場と連携し、毎年200人程の卒業生（計2万人を超える卒業生）が園で活躍しています。本学は、常に現場と対話・協働し、保育の質向上に寄与しています。だから分かることがあります。

和泉は教職員と学生との距離が近いので、学生との関わりを通して私たちは学生個々の保育への思いや特性を理解していきます。園とあなたを理解して、あなたのなりたい保育者像の実現、保育者としての夢を叶える職場との出会いをサポートします。